



ある休日のこと

父さん母さん

オレ彼女と
結婚するわ

は、はじめまして

就職を機に実家を出て
独り立ちしていた兄が

突然婚約の報告をしに
帰ってきた

それまで兄に彼女が
いたことすら
知らなかった俺や
両親にとって

……!

それはまさに
青天の霹靂……
へきれき

とんでもない
サプライズだった

あの
兄ちゃんが…

結婚…!?

ぜわ…





サトル？
もうお昼だし
すぐに帰って
くるわよ

あっお昼
お寿司でも
取ろっか

おっ
いいね
寿司



そそんな
ことより
サトルは
まだ帰って
こないの？



綺麗で
感じの良い
女性だよな

兄ちゃん
の婚約者……

そう言えば
もう一人
弟さんがいるん
だったね

そうそう
帰ってきたら
紹介するよ

……



だからこそ——
もし許される
ことなら
俺は彼女に伝えて
あげたい……

兄ちゃん
はやめとけ——

この家には
関与しないほうが
いい——と

そして――

目撃して
しまったのだ：

一心不乱に
交尾する――

ケダモノ
獣のような
母と兄の姿を――

A close-up of a character's face, focusing on the forehead where a large, stylized Japanese character 'は' (ha) is written in a dark brown ink. The character has a small 'め' (me) written below it, suggesting the name 'Hame'. The character's eyes are partially visible, and they have dark hair. The background is a soft, out-of-focus pink and orange.

しまったのだ...

はる

11/20/2019

トキ

42

知ッ

キッ

キ



それはまさに
目を疑うような
光景だった：

後にも先にもこの時ほど
人生において大きな衝撃を
受けたことは他にない

俺はその日
触れてはいけない
闇に触れて
しまったのだ：

自分の中の
家族観が
瞬時にして
一変するほどの
深い闇に……

はぁ

あぁ

ドチュッ

ドチュッ

ドチュッ

ギッ

ギッ

あぁ
聡太……

聡太……

スチュッ

スチュッ

おかーさん
も……

もう
イキそ……

とちゅ

とちゅ

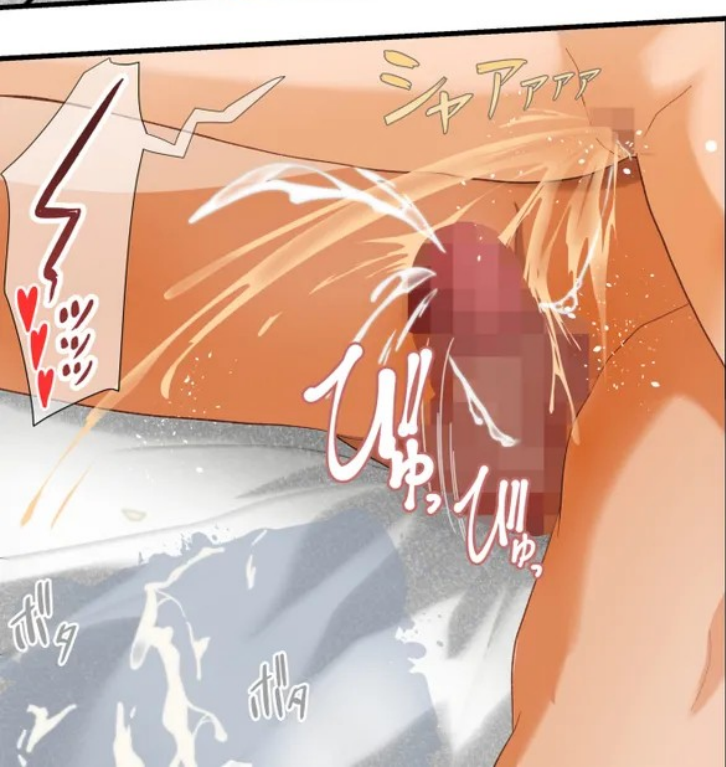
とちゅ

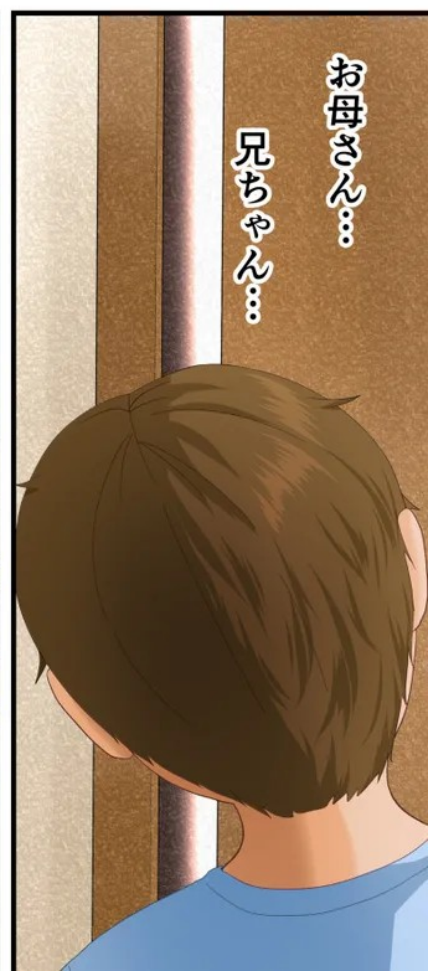
ギッ

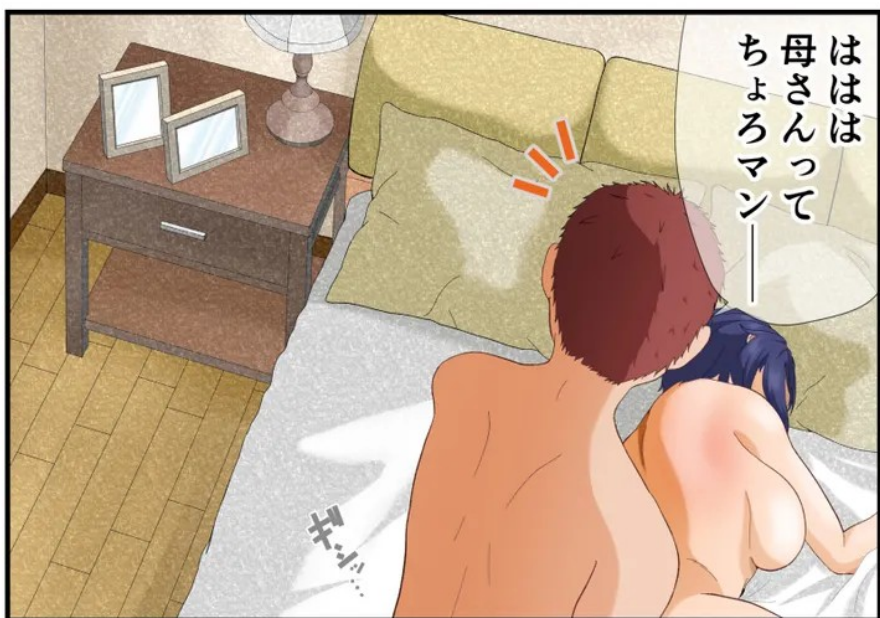
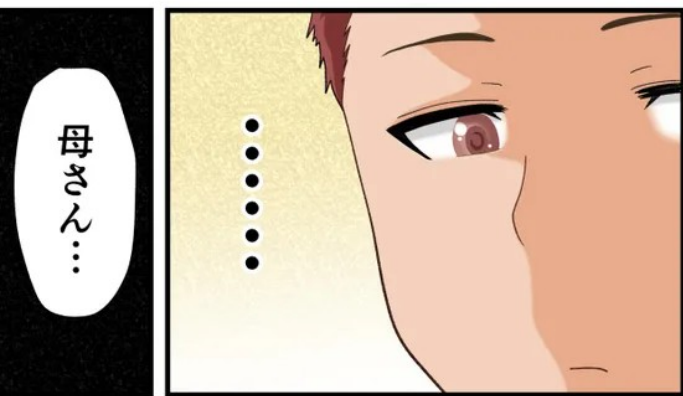
ギッ

ギッ













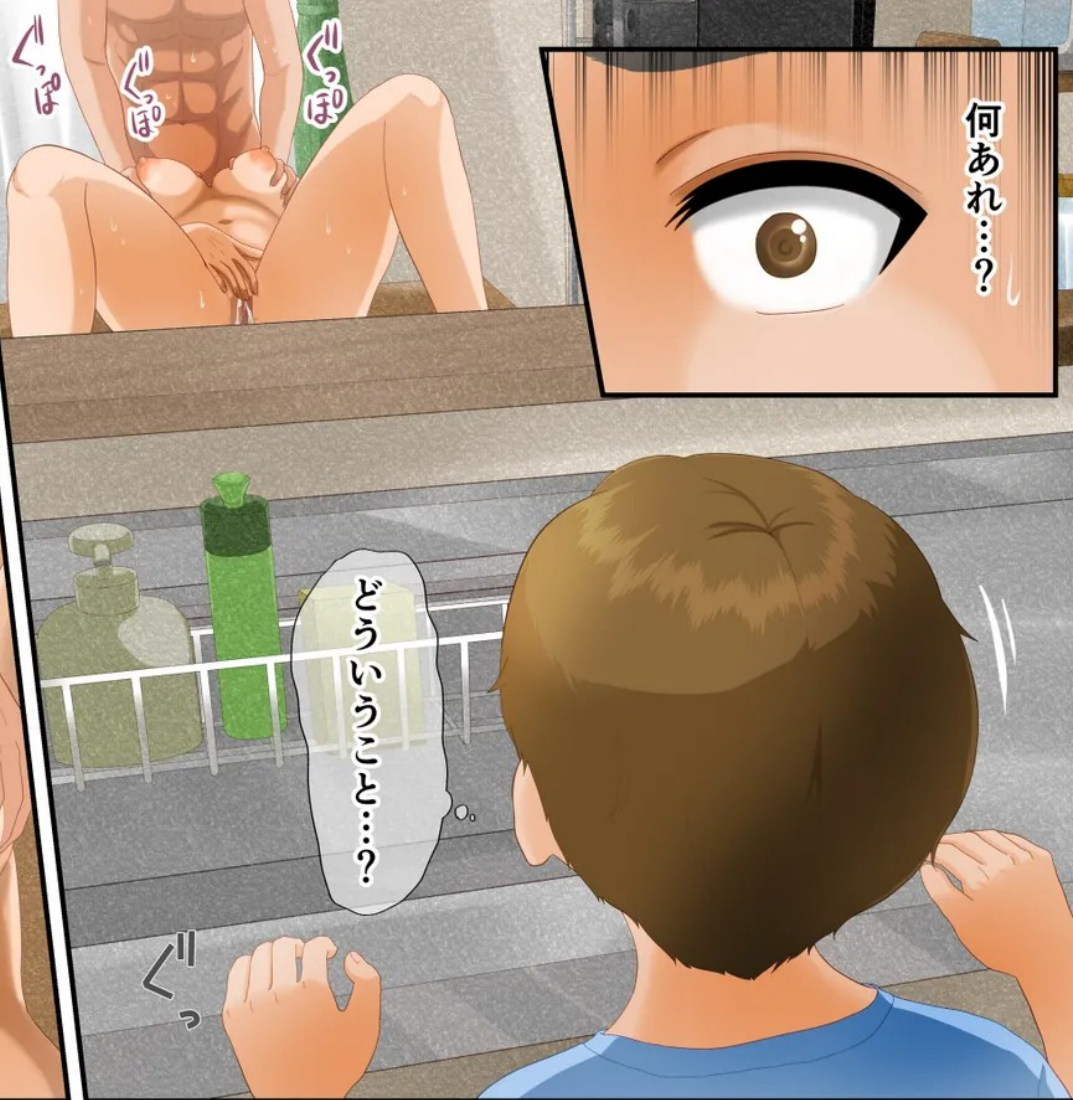


















おかーさんも
もうクタクタよお...

ねえったら...

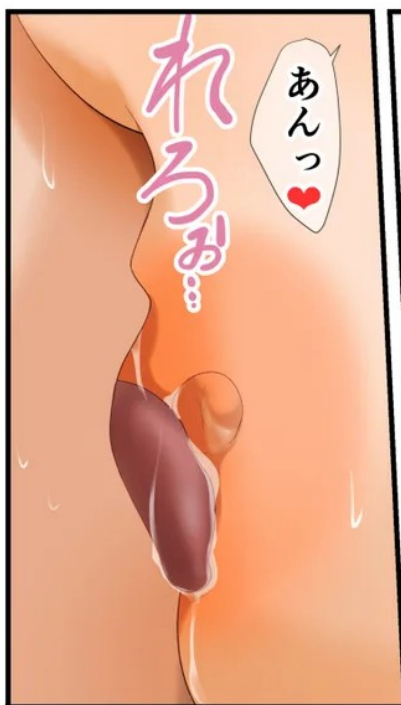
うう...
なかなか
逃げ出す
チャンスが
ない...



はあはあ...
聡太あ...
もういい加減
タケルが帰って
来ちゃうわよ



いくら吸っても
もう母乳なんか
出ないわよ?



あんっ♡



もうっ
さっきから
ずっとオッパイ
ばっかり...
赤ちゃんに
戻っちゃった
のかしら?



じゃあ
また母乳が
出る体にして
やろうかな









空が赤らみ始めた頃
ようやく俺は自宅を
脱出することができた

結果的に母と兄に
鉢合わせするといった
最悪の展開だけは
免れたものの

俺はその日
生涯誰にも口外できない
秘密を抱えることにな
ってしまったのだった

そして月日が
流れること
およそ〇年…

今となつては
あの日の記憶を
思い返して悶々と
するようなのは
ほとんど
無くなったけど

兄ちゃんのせいで
久しぶりに嫌なもん
思い出しちゃったなあ…



それにしても…
改めてこんな闇深い家に
嫁ぐ羽目になってしまった
相手の女性が気の毒だ

かと言って
こっちは身内として
ペラペラ秘密を喋る
わけにもいかないしなあ…

ガチャ…

ただいま…

